

教育目標

ゆめ	重点目標	具体的取組	取組の状況
子どもとつくる暮らし	子どものやりたいを一緒に叶える保育を目指して	環境を通してさまざまな体験をする。	生き物とのかかわりが増えるよう、ピオトープをつくり、メダカや水辺の草花を移植したり、草花や実のなる木の種類を増やし、四季折々に生活に取り入れられるよう充実させてきました。 ピオトープ、木の部屋、みんなルーム、園庭でこぼこなど、子どもたちの育ちを考えて、さまざまな環境を取り入れてきました。環境の工夫が進むにつれて、子どもたちの興味や関心も広がり、夢中になって遊び込む姿が増えています。
		身近な人とつながる楽しさを感じる。	時間や場の工夫によって、夢中になって遊ぶ姿が増え一人一人の育ちや学びにつながってきています。
		子育てで支援の充実を図る。	全職員で子ども理解を図り、一人ひとりの子どもとの対話、その子のありのままを受け止めることやその子のペースに添って、安心して園生活が送れるよう取組んでいます。
			給食の時間も好きな部屋で食べる等の工夫をしたことで、一層、かかわりが増え、さまざまな場面で、教え合ったり、助け合ったり、遊びを充実させたりする姿につながっています。
			小学校1年生との交流活動が定着し、職員同士も幼小で学びをつなぐ必要性や良さも実感できるようになってきました。保育所との交流が夏の暑さ等で、取組が進められていないので、小学校との交流に組み込めないか等、今後の課題です。
			日頃は、駐車場の問題もあり、ゆっくり話を聞ける時間がとりにくい現状があります。個々に声をかけて、時間を合わせたり、個人懇談会の充実を図ったりしています。
	保護者の抱える悩みや困り感にじっくりと耳を傾け、園として可能な限り保護者の思いに寄り添いながら丁寧に子育てを支えていく。 子育ての悩みや発達など、専門機関との連携を図り、子どもの健やかな成長につなげていく。 安心して暮らせる未就園児の子どもとのふれあいの場、悩み相談ができる場等、園が保護者の安心できる場となるようにする。	専門機関との連携が増え、毎月、園訪問が行われ、職員も相談しやすい状況になってきています。職員も専門知識を学ぶ場に積極的に参加し、子ども一人ひとりの成長につながるよう努めているところです。 未就園児の集いに参加してくれた子どもが入園につながっています。入園までに園の雰囲気を感じてもらうことができ、保護者の方との関係も入園前から築くことができ、お互いに安心につながっているように感じています。	

保護者アンケート集計結果の比較から見えてきた成果や課題

概ねアンケートでは「とてもそう思う」「思う」を合わせると高い傾向にある。環境構成についての質問では、職員も力を入れて、クラスだより等で伝えていることもあり、理解が進んできている。一方で、子どもの様子について「もっと園での様子を知りたい」という思いが感じられる回答もある。駐車場のこともあり、なかなかゆっくり話ができないこともあります。対話ができる環境づくりも今後、考えていきたいと思えます。

今年度の取組の成果と課題・今後の改善方策

(成果)園内の環境の見直しを行い、自然環境を園内に取り入れる工夫として、ピオトープづくりを行ったり、木の部屋を作ったりして、子どもたちの興味や関心を広げ、より豊かな学びにつながるよう取組むことができました。この取組みを通して、子ども、園を真ん中にさまざまな人とのつながりができたことが大きな成果となりました。
(課題)幼小交流が定着する中で、学びがつながっていくよう、指導計画を立てたり、幼小職員の語り合いを充実させていく必要があると感じています。また、保護者の方にも伝えていながら、公立幼稚園として、幼小連携が軸となるよう取組んでいきたいです。

学校(幼稚園)関係者評価委員による自己評価の検証

- 公立幼稚園の強みをいかし、いろいろな子どもがのびのびと、子ども同士が育ち合える環境をこれからも大切にしたい。
- 保護者が、話しやすい雰囲気を大切に、いろいろな場を活用して、孤立しないようつながることを意識していることが大事なので、今後も続けてほしい。